

城東中学校駐輪場設置工事

図面リスト

意匠図						
A-01	特記仕様書（1）					
A-02	特記仕様書（2）					
A-03	特記仕様書（3）					
A-04	配置図兼仮設計画図、付近見取図、求積表					
A-05	駐輪場 1 詳細図-1					
A-06	駐輪場 1 詳細図-2					
A-07	駐輪場 2 詳細図					
A-08	駐輪場 1 外構詳細図（改修前）					
A-09	駐輪場 1 外構詳細図（改修後）					
A-10	駐輪場 2 外構詳細図（改修前・後）					

城東中学校駐輪場設置工事 特記仕様書		2024.04	項目	特記事項	項目	特記事項			
I 工事概要 1. 工事場所 2. 工事種目 3. 関連工事等 4. 概定期限 II 建築工事仕様 1. 特記仕様 2. 適用基準等 3. 「週休2日制モデル工事」の実施について ①対象 ②特記事項 4. 対象外(理由) 項目	高知市江陽町1番20号 【駐輪場1】 鉄骨造平家建て 延べ面積41.89m ² 【駐輪場2】 鉄骨造平家建て 延べ面積22.02m ² 1) 駐輪場新設 一式	高知市江陽町1番20号 【駐輪場1】 鉄骨造平家建て 延べ面積41.89m ² 【駐輪場2】 鉄骨造平家建て 延べ面積22.02m ² 1) 駐輪場新設 一式	(12)発生材の処理 産業廃棄物の運搬、処分等については、(1.3.11)により適切に処分するものとし、事前に監督職員に処理計画書を提出する。 産業廃棄物の運搬、あるいは処分を他業者に委託する場合は、書面による委託契約を行い、処理計画書にその写しを添付する。 自己処分場で処分する場合は、その処分場が関係法令の規定に適合する旨の資料を提出し、監督職員の現地会見を受けたうえで承認を得る。(積替・保管についても同様とする) 産業廃棄物の収集、運搬に当たっては、廃棄物の處理及清掃に関する法律(以下廃棄物処理法という)施行令に基づく車両への表示及び書面の備え付けを行うこと。 また、産業廃棄物を搬出する車両について、処分場ごとに1台のみ写真撮影(現場搬出時及び処分場到着時)し、随時監督職員に報告する。 廃棄物処理法を遵守し、工期内に最終処分(埋立処分、海洋投入処分又は再生)を終了しなければならない。 また、産業廃棄物管理票(以下マニフェストという)により適正に処理されていることを確認するとともに、監督職員にそのE票の写しを提出する。 ただし、廃棄物処理法を遵守した上で、工期内に産業廃棄物の最終処分を終了することが困難な場合で、監督職員が認める場合においては、工期内に中間処理業者への搬入が終了すればよいものとする。 この場合、マニフェストにより適正に中間処理業者に搬入されていることを確認するとともに、監督職員にそのB2票の写しを提出する。また、最終処分終了後速やかにE票の写しを提出する。 なお、廃棄物処理法に定める電子情報処理組織を使用する場合は別途協議する。 ①引渡しをするもの ②現場再利用を図るもの ③再資源化を図るもの ※コンクリート ※コンクリート及び鉄から成る建設資材 ※木材 ※アスファルトコンクリート 特別管理産業廃棄物の処理方法	(1.3.11)	(13)再生資源利用(促進) 計画書及び実施書の提出(請負金額100万円以上) 再生資源利用(促進)計画書及び実施書を、建設副産物情報交換システム(コプリス・プラス)により作成し、提出は以下による。 a) コプリス・プラスについては、建設副産物情報センターのホームページ(https://fkplus.jaic.or.jp)より、利用申請等を行うことができる。 b) 建設資材の利用量の大小や有無に関らず、紙に出力した再生資源利用計画書及び実施書(建設リサイクルガイドライン様式1)を、完成資料として監督職員に提出する。 c) 建設副産物の発生量及び搬出量の大小や有無に関らず、紙に出力した再生資源利用促進計画書及び実施書(建設リサイクルガイドライン様式2)を、完成資料として監督職員に提出する。 d) 受注者は再生資源利用(促進)計画書(現場掲示用様式)を工事現場の見やすい場所に掲げること。 e) 受注者は作成したデータを含め、再生資源利用(促進)計画書及び実施書を工事完成後5年間保存する。	(1.2.1)	(20)直接仮設の養生 建築材料等	本工事の引き渡し後、あるいは、使用開始後に室内の揮発性有機化合物(VOC)の濃度測定が行われ、測定結果が厚生労働省の指針値を超える場合には、受注者は、工事引き渡し後であっても、その原因究明に当たって協力しなければならない。 また、本工事の施工が原因となって、化学物質の濃度が厚生労働省の定める指針値を超えたものであることが判明した場合は、受注者の負担により、その対策を講じなければならない。	
3. 関連工事等 4. 概定期限 II 建築工事仕様 1. 特記仕様 2. 適用基準等 3. 「週休2日制モデル工事」の実施について ①対象 ②特記事項 4. 対象外(理由) 項目	・電気設備工事 ・機械設備工事 ・ガス設備工事 ・昇降機設備工事 ・植栽工事 ・合併処理装置設置工事 ・外構工事 完成期限の()日前 (令和 年 月 日) (1.2.1)	1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印のつかない場合は、※印の付いたものを適用する。 3) 特記事項に記載の()内表示番号は、「公共建築工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。	1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印のつかない場合は、※印の付いたものを適用する。 3) 特記事項に記載の()内表示番号は、「公共建築工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。	1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印のつかない場合は、※印の付いたものを適用する。 3) 特記事項に記載の()内表示番号は、「公共建築工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。	(14)工事の保険 工事請負契約後、速やかに工事目的物、工事材料等に生じる損害、第三者に及ぼした損害を補償する保険を締結する。保険期間は、工事着手のときから完成期限より24日後以降までの期間とする。	(15)契約保証 ※金銭的保証方式	(21)建築材料等	内部養生に合板又は構造用パネルを使用する場合、その合板または構造用パネルのホルムアルデヒド放散量はF☆☆☆☆、又はそれと同等と認められる製品を使用する。	
一般共通事項 1. 工事実績情報サービス(CORINS)への登録(請負金額500万円以上)(受注、変更、完成時) 2. 総合工程表 3. 総合図 4. 工事日誌 5. 工事写真 6. 下請負者の報告 7. 電気保安技術者 8. 施工条件 9. 交通誘導警備員 10. 工事安全計画書 11. 総括安全衛生管理義務者の指名	登録の手続きについては、(一財)日本建設情報総合センターの「建設実績情報のコリンズテクリス登録等に関する規約」による。 原則、工事の着手に先立ち、別契約関連工事の受注者と協議し、受注者及び別契約関連工事の受注者連名による総合工程表を監督職員に提出する。 工事の施工に先立ち別契約関連工事の受注者と調整のうえ、総合図を作成し、監督職員の承諾を受ける。 週ごとに工事の全般的な経過及び次週の工事予定を記載した日誌を監督職員に提出する。 各下請負者については下請負契約前に監督職員に報告する。 適用する。 施工日及び施工時間(1.3.5(1)(7))による。 図面番号A-04図参照 工事用車両の駐車場所及び資機材の置場所 ※仮開口 図示 他の施工条件 ①資機材の搬出時には、専任の説明員を配置する。その他の場合でも、工事関係車両(乗用車も含む)が敷地内を通行する際には必ず説明するものをつけ、公道まで徐行する。 ②登下校時間帯や休み時間等は車両の通行を中止する等必要な配慮をする。 ③施設を利用しながらの工事となるので、作業時間・内容・大きな騒音又は振動を伴う作業については施設管理者と協議のうえ、作業時間等に配慮すること。 交通誘導警備員を配置する場合は、原則として警備業法(昭和47年法律第117号)第4条による認定を受けた警備業者の警備員を配置することとし、建設作業員等の他職種の者を従事させないこととする。ただし、一時的な作業等で、安全確保に對処できる監督職員が認めたものについては、この限りでないものとする。 配置人員等 令和 年 月 日から令 和 年 月 日までの間は 名常駐する。 ・作業日は 名常駐する。その他監督職員と協議し、適宜配置する。 ④監督職員と協議し、適宜配置する。 配置人員の資格 ・1名以上/1班は交通誘導警備業務に係る検定合格者(1級又は2級)を配置する工事。 ※交通誘導に關し、1名以上/1班は専門的な知識及び技能を有する警備員等を配置する工事。 資 格 資 格 要 件 配置人數 1. 2級交通誘導警備 交通誘導警備に關して、公安委員会が学科及び実施試験を行い、専門的な知識及び技能を有すると認めたもの 人 検定合格者(交通誘導警備員A) 2. 交通誘導に關し、専門警備業法における指定講習を受講したもの 警備業法における基本的基礎教育及び業務別教育(警備業法第2条第1項第2号の警備業務)を現に受けているもので、交通誘導に關する警備業務に從事した期間(実務経験年数)が1年以上あるもの 人 (交通誘導警備員B) 5 人 なお、事前に監督職員に検定合格証の写し等の資格要件の確認できる資料を提出する。 また、警備員等に変更が生じた場合は、速やかに監督職員に同様の資料を提出する。 建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に、工事安全計画書を監督職員に提出する。 労働安全衛生法第30条第2項に基づき指名をする。 (1.3.7)	1) 交通誘導警備に關して、公安委員会が学科及び実施試験を行い、専門的な知識及び技能を有すると認めたもの 人 2) 交通誘導に關し、専門警備業法における指定講習を受講したもの 警備業法における基本的基礎教育及び業務別教育(警備業法第2条第1項第2号の警備業務)を現に受けているもので、交通誘導に關する警備業務に從事した期間(実務経験年数)が1年以上あるもの 人 (交通誘導警備員B) 5 人 なお、事前に監督職員に検定合格証の写し等の資格要件の確認できる資料を提出する。 また、警備員等に変更が生じた場合は、速やかに監督職員に同様の資料を提出する。 建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に、工事安全計画書を監督職員に提出する。 労働安全衛生法第30条第2項に基づき指名をする。 (1.3.7)	(16)前払金支出割合区分補正 (17)証明書の提出(グリーン購入法) 18)技能士及び技能資格者 ※適用する(○:一級、●:二級) 工事種別 技能検定等の作業の種別 ・仮設工事 ※●とび作業(又は足場組立作業主任者) ・鉄筋工事 ※○鉄筋組立て作業 ・コンクリート工事 ○コンクリート圧送工事作業 ○型枠工事作業 ・鉄骨工事 ※●とび作業 ・ブロック・ALCパネル工事 ○コンクリートブロック工事作業 (单一)エーエルシーパネル工事作業 ・防水工事 ○アスファルト防水工事作業 ○合成ゴム系シート防水工事作業 ○ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ○改質アスファルトシートトーチ法防水工事作業 ○アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ○シリング防水工事作業 ○セメント系防水工事作業 ○FRP防水工事作業 ○塗化ビニル系シート防水工事作業 ・石工事 ○石張り作業 ・タイル工事 ○タイル張り作業 ・木工事 ○大工工事作業 ・屋根及びとい工事 ○かわらぶき ●スレート工事作業 ○内外装板金作業 ・金属工事 ○鋼製下地工事作業 (单一)金属製バルコニー工事作業 ・左官工事 ○左官作業 ・建具工事 ○ビル用サッシ施工作業 ○木製建具製作 ○ガラス工事作業 ・カーテンウォール工事 ○金属製カーテンウォール工事作業 ・塗装工事 ○建塗装作業 ・内装工事 ○プラスチック系床仕上げ工事作業 ○壁塗装作業 ●カーペット系床仕上げ工事作業 ○畳製作作業 ・植栽工事 ○造園工事作業 ・その他 ○又は(单一)樹脂接着剤注入工事作業(エポキシ樹脂注入工事) ○工具手作業 適用する技能士について、当該資格を有することが確認できる書類及び資格者が特定できる書類(運転免許証等)の写しを提出する。	(1.4.2)	(19)化学物質の室内濃度の測定 化学物質の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、(1.5.9)報告書を監督職員に提出する。 ただし、完成検査前に報告書の提出が困難な場合は、事前に信頼のにおける速報等の資料を監督職員に提出する。この場合、後日に正式な報告書を速やかに監督職員に提出しなければならない。 測定する業者の選定にあたっては、あらかじめ監督職員に報告すること。 測定方法 ※厚生労働省「室内空気中化学物質の室内濃度指針値及び標準的測定方法について」による。 測定対象化学物質 ※ホルムアルデヒド ※トルエン ※キシレン ※エチルベンゼン ※スチレン ※パラジクロロベンゼン 測定箇所 ()箇所 測定時期 完成前 着手前 測定対象室 () なお、測定結果が厚生労働省の定める指針値を超える場合は、原則として本工事の引き渡しを行わないこととする。ただし、次のいずれかに該当する場合は除く。 1) 何らかの対策が施された結果、揮発性有機化合物の濃度が厚生労働省の定める指針値以下となつたことが確認された場合。 2) 減濃測定の結果が、工事の施工により生じたものでないことが明確である場合。 3) 濃度測定が、使用開始後(備品の搬入等を含む)に行われた場合。	(1.5.9)	(22)特別な材料の工法 風圧力 仕上面の凹凸処理 25)事業損失補償 完成時の提出図書 26)完成写真 27)別途設備工事との取合い 28)不當要求等への対応 30)消防計画 31)工事特性等 仮設工事 1) 足場その他 2) 監督職員事務所	内部養生に合板又は構造用パネルを使用する場合、その合板または構造用パネルのホルムアルデヒド放散量はF☆☆☆☆、又はそれと同等と認められる製品を使用する。	本工事の引き渡し後、あるいは、使用開始後に室内の揮発性有機化合物(VOC)の濃度測定が行われ、測定結果が厚生労働省の指針値を超える場合には、受注者は、工事引き渡し後であっても、その原因究明に当たって協力しなければならない。 また、本工事の施工が原因となって、化学物質の濃度が厚生労働省の定める指針値を超えたものであることが判明した場合は、受注者の負担により、その対策を講じなければならない。

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
3 監督職員の備品等	備品等の設置 備品の種類 机・椅子 書棚 黒板 P C 掛時計 数量 組 台 枚 台 個 備品の種類 溫度計 ゴム長靴 雨がっぽ 保護帽 懐中電灯 数量 個 足 着 個 個 備品の種類 衣類ロッカー 冷暖房機器 消火器 湯沸器 加入電話付属器 数量 人用 台 個 台 台 備品の種類 掃除工具 数量 個	(2.3.1)	5 鋼杭地業	材料 ・鋼管ぐい 種類の記号(・SKK400 ・SKK490) ・H形鋼ぐい 種類の記号(・SHK400 ・SHK490M) 寸法 ※ 図示 工法 特定埋込杭工法(建築基準法認定工法) 支持層の位置及び土質: ※ 図示 杭の根入れ長さ: ※ 図示 杭の精度: 水平方向の位置ずれの精度 杭径の1/4かつ100mm以内 傾斜 1/100以内 杭の維手の工法 ※ 図示 ・杭頭処理 杭頭の切断方法 ※ ガス切断 図示 鉗削工法 ・アースドリル工法 (安定液) ※ 使用する 使用しない ・リバース工法 ・オールケーシング工法 (孔内の水張り) 行う 行わない 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 ・拡底杭工法 (安定液) 使用する 使用しない 帶筋の加工及び組立て: ※ 図示 鉄筋の最小かぶり厚さ 100mm 鉄筋かごの補強 鉄筋の筋ごとの維手 セメントの種類 コンクリートの設計基準強度(Fc) コンクリートの種別 スランプ 構造体強度補正値(S) 鋼管(鋼管部分の材料) 支持層の位置及び土質: 孔壁の確認 杭の精度: 水平方向の位置ずれ 杭径の1/4かつ100mm以下 傾斜 1/100以内	(4.4.3) (表4.4.1)	6 圧接完了後の試験 7 機械式維手 8 溶接維手	試験方法 ※ 超音波探傷試験 引張試験 平成12年建設省告示第1463号に適合する性能 ・A級 鉄筋相互のあき ・評定等の内容による 図示 施工完了後の維手部の試験 ・外観試験 試験項目、試験方法 ※ 図示 ・超音波探傷試験 試験対象 ※ 図示 不合格となった場合の措置 ※ 図示 平成12年建設省告示第1463号に適合する性能 ・A級 鉄筋相互のあき ・評定等の内容による 図示 施工完了後の維手部の試験 ・外観試験 試験項目、試験方法 ※ 図示 ・超音波探傷試験 試験対象 ※ 図示 不合格となった場合の措置 ※ 図示	(5.4.10)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
4 工事用水・電力	構内既存の施設(用水) ◎ 利用できる (※有償・無償) ※ 利用できない 構内既存の施設(電力) ◎ 利用できる (※有償・無償) ※ 利用できない 構内既存の施設を利用できる場合で、無償の場合は、下記a)~c)による。 a) 既存設備の水栓等から直接水を使用する場合は、監督職員と協議する。 b) 既存のコンセントから直接電力を使用する場合は、監督職員と協議する。 c) 工事用電源を既存建築物から分岐する場合は、原則、既設分電盤の共用回路のコンセントからとする。なお、接続する回路の負荷状態等を確認し、既設負荷への波及がないようにする。 また、漏電遮断器付コンセント等を使用し、安全の確保を図る。 構内既存の施設を利用できる場合で、有償の場合は、上記a)~c)に下記d)~e)を加える。 d) 工事用水は、既存設備に量水器を設けて、仮設配管を施し使用するものとする。 e) 工事用電力は、原則、既存設備に電力計を設けて、仮設配電盤を設置し、使用するものとする。		6 場所打ち コンクリート杭地業	杭の維手の工法 ・杭頭処理 杭頭の切断方法 ※ ガス切断 図示 鉗削工法 ・アースドリル工法 (安定液) ※ 使用する 使用しない ・リバース工法 ・オールケーシング工法 (孔内の水張り) 行う 行わない 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 ・拡底杭工法 (安定液) 使用する 使用しない 帶筋の加工及び組立て: ※ 図示 鉄筋の最小かぶり厚さ 100mm 鉄筋かごの補強 鉄筋の筋ごとの維手 セメントの種類 コンクリートの設計基準強度(Fc) コンクリートの種別 スランプ 構造体強度補正値(S) 鋼管(鋼管部分の材料) 支持層の位置及び土質: 孔壁の確認 杭の精度: 水平方向の位置ずれ 杭径の1/4かつ100mm以下 傾斜 1/100以内	(4.4.5)	9 各部の配筋	コンクリート工事 ① コンクリートの種類・強度・スランプ ② セメントの種類 ③ 骨材 ④ 混和材料 ⑤ 構造体強度補正値(S) ⑥ 打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ⑦ 打増し厚さ ⑧ 構造体コンクリートの仕上り ⑨ コンクリートの仕上りの平たんさ ⑩ スリーブの材種、規格等 ⑪ 床型枠用鋼製デッキプレート	※ 普通コンクリート 設計基準強度 Fc(N/mm²) スランプ(cm) ※ 21 ○ 15 · 18 · 18 · 15 · 18 · ・ 軽量コンクリート 設計基準強度 Fc(N/mm²) スランプ(cm) ※ 21 · 15 · 18 · 18 · 15 · 18 ・ コンクリートの類別 ※ I類 · II類 ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ・高炉セメントB種 (適用箇所: ・フライアッシュセメントB種(適用箇所: アルカリシリカ反応性による区分 ※ A · B ① 混合剤 ※ AE剤又はAE減水剤標準形 (JIS A 6204) ・高性能AE減水剤標準形 (JIS A 6204) ・混和材 ・フライアッシュ (I種 · II種 · IV種) (JIS A 6201) ・コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) ・コンクリート用シリカフューム (JIS A 6207) ・コンクリート用膨張材 (JIS A 6202) ※表6.3.2による 打継ぎ目地の寸法 ※ 9.7.3(1)(7)による ひび割れ誘発目地の位置 ※ 図示 ひび割れ誘発目地の形状及び寸法 ※ 9.7.3(1)(7)による 打増し厚さ 外部に面するコンクリートの打増し厚さ(mm) 外壁 ※ 図示 · 20 · 25 · 軒天 ※ 図示 · 10 · 15 · 20 その他 ※ 図示 · 20 コンクリートの打放し仕上げ ※合板せき板を用いる場合 種別 厚さ(mm) · A種 ※ 12 · · B種 ※ 12 · · C種 ※ 12 · せき板の材料として合板を用いない場合 材料 () 厚さ () 適用部位 ※ 下表 ・ 固定部による仕上げの目安 種別 コンクリートの内外装仕上げ 平たんさ 柱・梁・壁 a種 フレームが見え隠りとなる場合又は仕上げ厚さが極めて薄い場合その他非常に良好な平たんさ及び良好な表面状態が必要な場合 3mにつき 7mm以下 化粧打放しコンクリート 塗装仕上げ b種 仕上げ厚さが7mm未満の場合その他の良好な平たんさが必要な場合 3mにつき 10mm以下 壁紙張り c種 仕上げ厚さが7mm以上の場合又は下地の影響を受けにくい仕上げの場合 1mにつき 10mm以下 セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り モルタル塗り 床型枠下地 二重床 ※ 下記の通り (i) 外壁の中部分等水密を要する部分に用いるスリーブは、つば付き鋼管とする。 (ii) 地中部で水密を要しない部分に用いるスリーブは、硬質ポリ塩化ビニル管とする。 (iii) (i)及び(ii)以外の円形スリーブは、溶融亜鉛めっき鋼板とし、原則として、筒形の両端を外側に折り曲げてつばを設ける。また、必要に応じて、円筒部を両方から差し込む伸縮形とする。 (iv) 硬質ポリ塩化ビニル管は、防火区画を貫通する場合には使用しない。 なお、柱及び梁以外の箇所で、開口補強が不要であり、かつ、スリーブ径が200mm以下の部分は、紙チューブとすることができる。	(5.5.3)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
5 仮囲い	※ 図示		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																																		
12 軽量コンクリート	(6.10.1) (6.10.2) (表 6.10.1) 種類 所要気乾単位容積質量 (t/m³) スランプ 適用箇所 ・ 1種・2種 ※表6.10.1による ・ ※21 ・ ※図示	4 コンクリート舗装	コンクリート舗装の厚さ (22.5.2) 舗装の種類 部位 舗装の厚さ (mm) ○コンクリート舗装 ・ 車路及び駐車場 ※ 150 ・ 図示 ・ ・ 行歩者用通路 ※ 70 ・ 図示 ・	5 カラー舗装	コンクリート舗装に使用するコンクリート (22.5.3) (表22.5.1) 部位 設計基準強度 (N/mm²) 所定のスランプ (cm) 粗骨材の最大寸法 (mm) ○車路及び駐車場 ※ 24 ・ ※ 8 ・ 砂利の場合 25 40 ・ 行歩者用通路 ※ 18 ・ ※ 8 ・ 砕石の場合 ○ 20 25 砂利の場合 ※ 25 ・ 砕石の場合 ※ 20 ・	6 透水性アスファルト舗装	早強セメント 使用する 使用しない 注入目地材料の種別 ※ 低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ (22.5.3) (表22.5.2) 目地の種類 ※ 表22.5.3による ・ 図示 (22.5.4) 目地の構造 ※ 図22.5.1による ・ 図示 (22.5.4)	7 ブロック系舗装	舗装の種類 部位 着色部の厚さ (mm) ※ アスファルト混合物 加熱系 車路及び歩行者用通路 3~5 常温系 ・ ニート工法 車路及び歩行者用通路 1程度以下 ・ 塗布工法	8 砂利敷き	加熱系混合物に添加する材料 着色骨材 (材質:) 自然石 (材質:) (22.6.3) 結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料の添加量 (22.6.4) ニート工法及び塗布工法の配合等 (22.6.4)	9 解体工事	舗装の構成 (歩行者用通路) ※ 図示 ・ 舗装の構成 (車路) ※ 図示 ・ 舗装の平たん性 ※ 著しい不陸がないもの (22.7.2) アスファルト混合物の抽出試験 行う ※ 行わない (22.7.6)	10 その他	仕上がり面の平たん性 ※ 22.8.2(2)による ・ ・ コンクリート平板舗装 (22.8.2) (22.8.3)	11 その他	種類 寸法 (mm) 厚さ (mm) 目地材 表面加工 備考 ※ 普通平板 (N) ※ 30角 30 ※ 砂 ・ 研ぎ出し ・ 透水性平板 (P) 40角 60 ・ モルタル ・ 洗い出し ・ 保水性平板 (M) 450角 80 ・ たたき出し	12 その他	・ インターロッキングブロック舗装 (22.8.2) (22.8.3) 種類 厚さ (mm) 曲げ強度 (N/mm²) 品質 (色彩、表面加工) ※ 普通ブロック (N) 車路 ※ 80 5.0 ※ 標準色 ・ 透水性ブロック (P) 歩行者用通路 ※ 60 3.0 ・ 保水性ブロック (M)	13 その他	・ 舗石舗装 種類 寸法 (mm) 厚さ (mm) 施工方法 備考 ※ 小舗石 (花こう岩) 80 うろこ張り	14 その他	種別 通路 ※ A種 B種 建物周囲その他 A種 ※ B種 (22.9.2) (表22.9.1)	15 その他	解体範囲 ※ 図示 (土中解体で図面に記載がない場合は、基礎捨コンクリートまでとする。) ・ その他	16 その他	解体作業注意事項 a) 解体機器は圧碎機を主体とし、騒音及び振動等の発生防止に努める。 b) 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、その他の関係法令等によるほか、工事に伴い発生する廃棄物は選別等を行い、リサイクル等再資源化に努めること。 c) 車両の出入りにおいては、道路を泥等で汚さないように留意すること。また、止むを得ず汚した場合は、速やかに清掃すること。 d) 解体作業中は散水等を行い、粉塵等の飛散防止に努め、廃材搬出車両には、飛散防止用のシートを被せて運行すること。 e) 工事作業者の通勤用車両での乗り込みは最小限に留め、全ての工事関係車両は進入路及び敷地内では徐行運転すること。 f) 工事関係車両は、周辺道路での待機及び路上駐車は行わないこと。 g) 施設関係者は、通行者、近隣等に危害が及ぼぬよう、騒音及び振動、工事関係車両の通行等に注意すること。 h) P C B が含まれる機器類が発見された場合は、監督職員に報告すること。また、その P C B を含む機器類については、高知市が指示する場所に保管すること。 i) 以上の項目は受注者はもとより下請業者にも、周知徹底されること。 j) 資材、機材の搬入は朝夕の交通ラッシュ時には行わないこと。	17 その他	解体作業中はデジタル式の(・騒音計 ・振動計)を設置し、記録すること。また、記録したものを報告書として提出すること。なお、関連法令で定める数値を上回った場合は、作業を中止し、監督職員に速やかに報告すること。	18 その他	測定点 ※ 敷地境界 () か所: 詳細な位置は監督職員と協議による ・ 図示 ・ その他	19 その他	・ 電灯等は、別途設備工事で撤去すること。 ・ 工事現場着手は電気及び機械設備工事の切り替え後とする。	20 その他	工事名 A L 建築設計事務所株式会社 Architect Laboratory design office Co., Ltd. 高知市介良乙3729番地24 Tel: 090-9775-5294 / Fax: 088-881-1676 一級建築士事務所 高知県知事許可 第1278号 管理建築士 一級建築士(大臣)第327025号 辻本 一英	係 係長 課長補佐 課長	図面番号																																		
13 無筋コンクリート (捨コンクリートを除く)	コンクリートの種類 ※ 普通コンクリート・軽量コンクリート (6.14.1) 設計基準強度 Fc (N/mm²) スランプ (cm) 適用箇所 ※ 18 ・ ※ 15 18 ※ 6.14.1(4)による ・ 図示	1 軽量コンクリート	コンクリートの種類 部位 舗装の厚さ (mm) ○コンクリート舗装 ・ 車路及び駐車場 ※ 150 ・ 図示 ・ ・ 行歩者用通路 ※ 70 ・ 図示 ・	2 排水工事	コンクリート舗装に使用するコンクリート (22.5.3) (表22.5.1) 部位 設計基準強度 (N/mm²) 所定のスランプ (cm) 粗骨材の最大寸法 (mm) ○車路及び駐車場 ※ 24 ・ ※ 8 ・ 砂利の場合 25 40 ・ 行歩者用通路 ※ 18 ・ ※ 8 ・ 砕石の場合 ○ 20 25 砂利の場合 ※ 25 ・ 砕石の場合 ※ 20 ・	3 排水樹ふた	早強セメント 使用する 使用しない 注入目地材料の種別 ※ 低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ (22.5.3) (表22.5.2) 目地の種類 ※ 表22.5.3による ・ 図示 (22.5.4) 目地の構造 ※ 図22.5.1による ・ 図示 (22.5.4)	4 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	5 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	6 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	7 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	8 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	9 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	10 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	11 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	12 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	13 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	14 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	15 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	16 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	17 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	18 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	19 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	20 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	21 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	22 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	23 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	24 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	25 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	26 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	27 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	28 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	29 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	30 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	31 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	32 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	33 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	34 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂利、切込砕石 ※ 再生クラッシャラン (4.6.2) (21.2.2) 現場打ちの場合のコンクリート 種類 ※ 普通コンクリート 設計基準強度 ※ 18 N/mm² スランプ ※ 15cm 18cm 現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※ S D 295	35 排水樹ふた	側塊の形状及び寸法 ※ 図示 排水樹の種類 ※ 図示 地業用材料 ・ 切込砂

工事概要		工事内容
工事名称	城東中学校駐輪場設置工事	<ul style="list-style-type: none"> ・スチール製駐輪場の新設 ・樹木の伐採伐根 ・集じん機の撤去 ・駐輪場設置部分の舗装改修
工事場所	高知市江陽町1番20号	
主要道路幅員：南側8.100m 敷地と接している部分の長さ：184.500m		施工条件
道路斜線制限：道路幅員≥計画建物高さ：OK 隣地斜線制限：20m≥計画建物高さ：OK		<ul style="list-style-type: none"> ・作業不可日 令和7年 12月4日 12月8日AM 12月9日AM 12月10日AM 12月18日PM 令和8年 1月18日PM
計画建物周囲に高低差なし。		

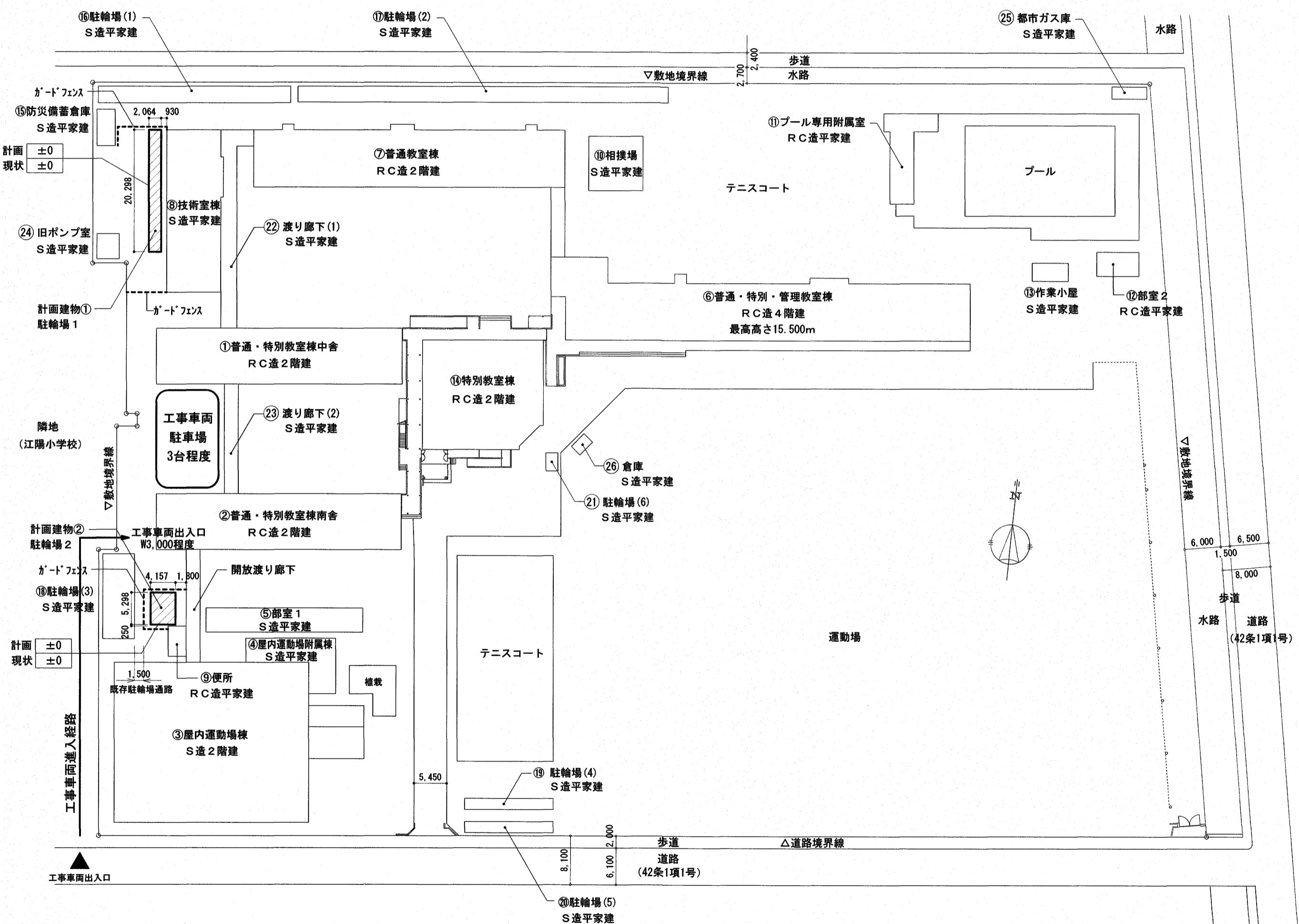
□ 面積表				21,336.00 m ²	6,454.14 坪
用 途	申請部分		申請以外の部分	合 計	敷地面積との比
	駐輪場 1	駐輪場 2	中学校 (既存建物①～⑯)		
建築面積	21.59 m ²	11.42 m ²	4,570.97 m ²	4,603.98 m ²	21.58 %
延べ床面積	41.89 m ²	22.02 m ²	8,147.63 m ²	8,211.54 m ²	
(内車庫等)	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²	
容積対象床面積	41.89 m ²	22.02 m ²	8,147.63 m ²	8,211.54 m ²	38.49 %

□ 面積表（申請建物）			
	建物名称	建築面積	延床面積
計画建物①	駐輪場 1	21.59 m ²	41.89 m ²
計画建物②	駐輪場 2	11.42 m ²	22.02 m ²
合計		33.01 m ²	63.91 m ²

□ 面積表（既存建物）

棟数	建物名称	延床面積	建築面積
1	① 普通・特別教室棟中舎	760.03 m ²	
	② 普通・特別教室棟南舎	760.03 m ²	
	⑥ 普通・特別・管理教室棟	2,770.00 m ²	
	⑦ 普通教室棟	1,022.38 m ²	
	⑧ 技術室棟	246.13 m ²	
	⑯ 特別教室棟	794.38 m ²	
	㉑ 渡り廊下(1)	93.53 m ²	
	㉒ 渡り廊下(2)	41.86 m ²	
2	開放渡り廊下		
3	③ 屋内運動場棟	903.00 m ²	
	④ 屋内運動場附属棟	90.65 m ²	
4	⑤ 部室 1	105.86 m ²	
5	⑨ 便所	16.50 m ²	
6	⑩ 相撲場	81.00 m ²	
7	⑪ プール専用附属室	74.90 m ²	
8	⑫ 部室 2	34.44 m ²	
9	⑬ 作業小屋	18.90 m ²	
10	⑮ 防災備蓄倉庫	13.90 m ²	
11	⑯ 駐輪場(1)	50.00 m ²	
12	⑰ 駐輪場(2)	102.00 m ²	
13	⑱ 駐輪場(3)	74.20 m ²	
14	⑲ 駐輪場(4)	27.40 m ²	
	⑳ 駐輪場(5)	27.40 m ²	
ア	㉑ 駐輪場(6)	6.00 m ²	
15	㉔ 旧ポンプ室	15.54 m ²	
16	㉕ 都市ガス庫	11.60 m ²	
イ	㉖ 倉庫	6.00 m ²	
	計	8,147.63 m ²	4,570.97 m ²

計画通知：H15.12.9第H15計認建築高知市00027号による
検査済証：H16.2.19第H15計済建築高知市00027号による



▲ : 工事車両出入口を示す

 : 【新設】駐輪場を示す

----- : 仮囲い (ガードフェンスH=1800程度) を示す

配置図兼仮設計画図 S=1/600

計画建物周囲の高低差を示す

付近見取図 S=1/2,500

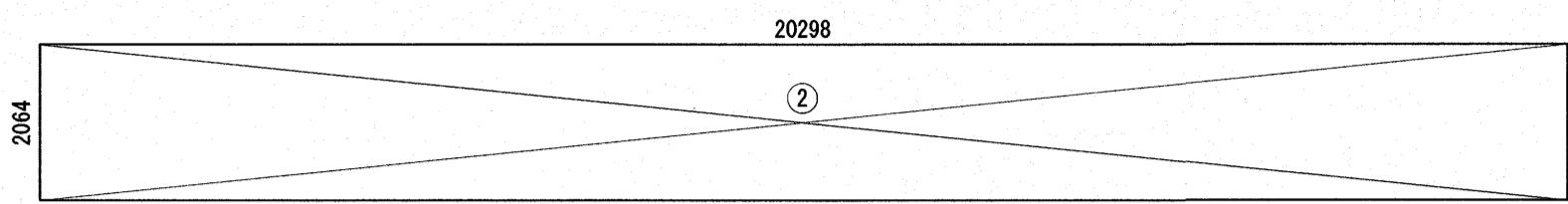
ARTICLE	※A2→A3(71%縮小)	担当	係長	課長補佐	課長	PROJECT	城東中学校駐輪場設置工事	DATE		AL 建築設計事務所株式会社 Architect Laboratory design office Co., Ltd. 高知市介良乙3729番地24 Tel:090-9775-5294/Fax:088-881-1676 一級建築士事務所 高知県知事許可 第1278号 管理建築士 一級建築士(大臣)第327025号 辻本 一英	DRAW	PAGE NO.
		信 清	津 田	大 下	濱 口		松 木	SUBJECT	配置図兼仮設計画図、付近見取図、求積表	SCALE	1/600 1/2500	

仕様大要

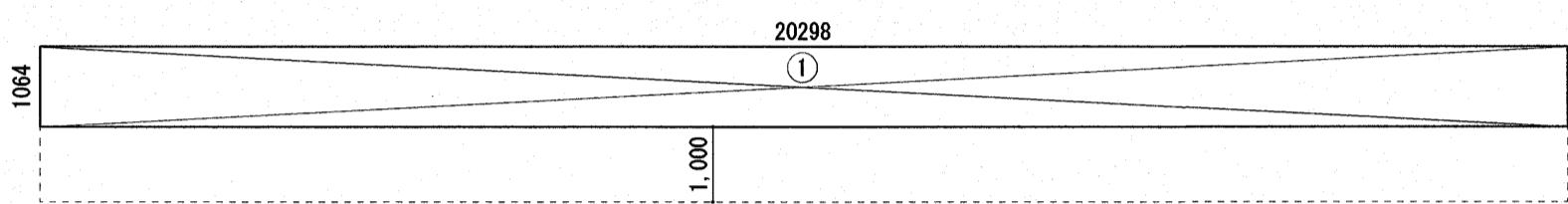
品名	サ イ ズ	材 質	仕 上 げ
柱	φ 89. 1 × 4. 2	亜鉛-アルミ マグネシウム合金めっき鋼管	ポリエスチル系樹脂塗装
梁	φ 89. 1 × 4. 2	"	"
母屋	C-60 × 30 × 15 × 1. 6	Z A M	"
化粧板	t 0. 6	"	"
軒樋	t 0. 6	"	"
屋根板	t 0. 5	ガルバリウム鋼板	"
後母屋	t 1. 6	Z A M	"
筒力バー		A S A	
堅縄	φ 4. 2	A A S	

※設計基準風速 V₀=38m/s、地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力 50kN/m²に対応とする。

※基礎寸法及び駐輪場上屋部材寸法、形状は製造所の仕様による。



床面積求積図 S=1/100



20298

(1)

1.000

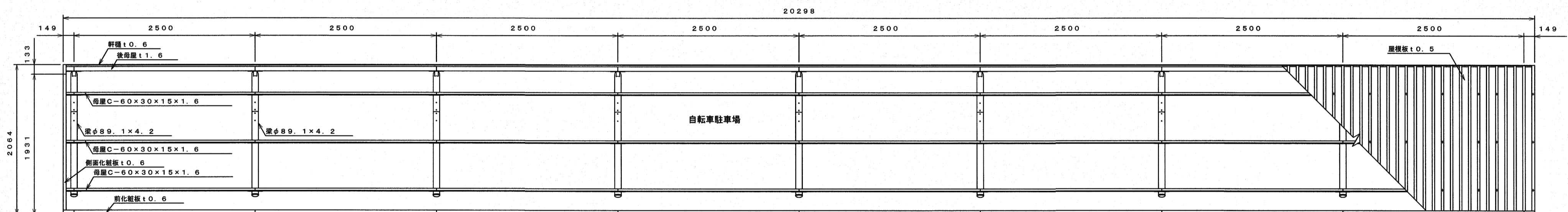
建築面積求積図 S=1/100

面積求積図 S=1/100

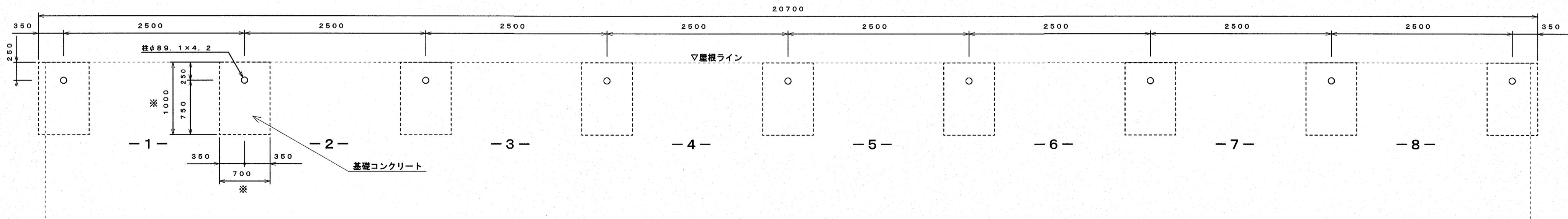
・面積表		
①	20.298 × 1.064	21.597072
②	20.298 × 2.064	41.895072

・建築面積求積表		
①		21.597072
計		21.597072
		21.59 m ²
		(6.53 坪)

・床面積求積表		
②		41.895072
計		41.895072
		41.89 m ²
		(12.67 坪)



平面図 S=1/40



△屋根ライン

基礎伏図 S=1/40

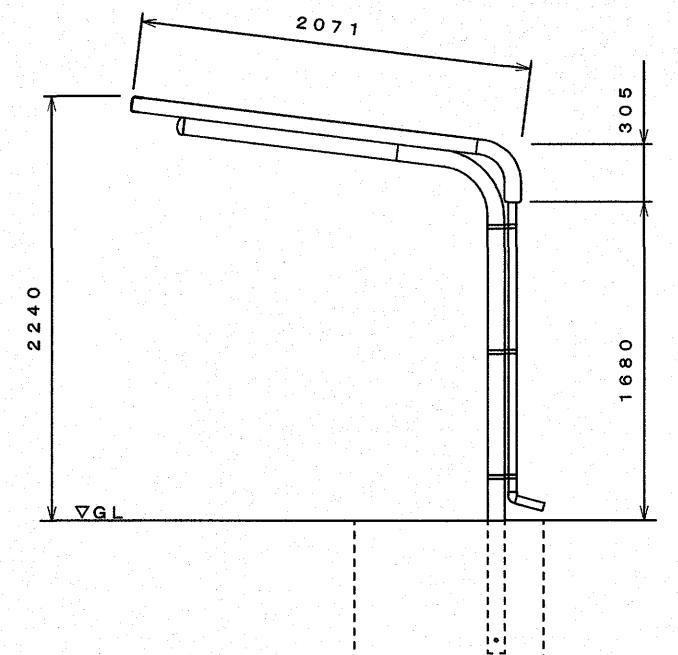
ARTICLE	※A2→A3 (71%縮小)				PROJECT	城東中学校駐輪場設置工事	DATE		AL 建築設計事務所株式会社 Architect Laboratory design office Co., Ltd.	DRAW	PAGE NO.
	担当	係長	課長補佐	課長							
	(信) 清	(大) 下	(濱) 口	(松)							
	SUBJECT	駐輪場 1 詳細図-1					SCALE	1/40, 1/100			
									Tel:090-9775-5294/Fax:088-981-1676 一級建築士事務所 高知県知事許可 第1278号 管理建築士 一級建築士(大臣)第327025号 江本 一美		A - 05

仕様大要

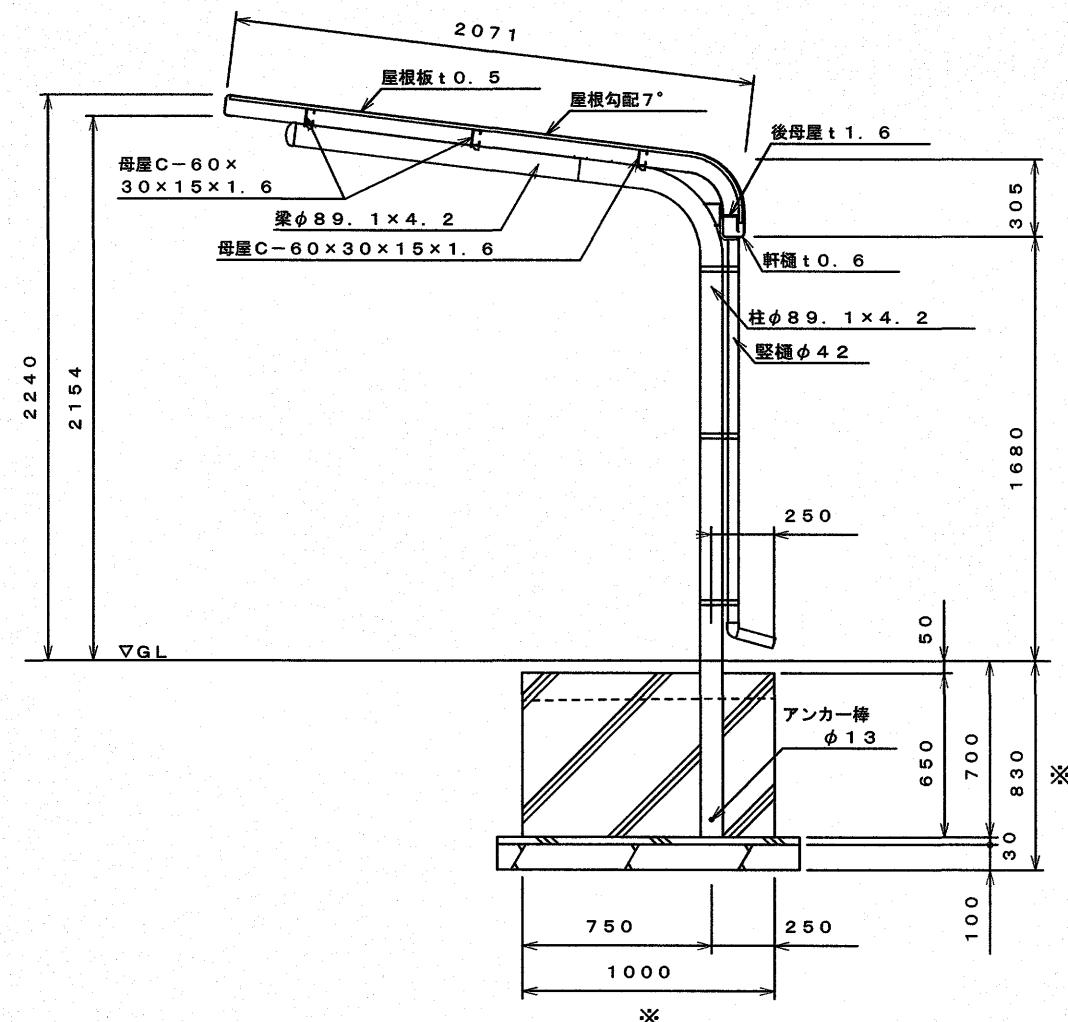
品名	サイズ	材質	仕上げ
柱	φ 89. 1 × 4. 2	亜鉛-アルミニウム合金めっき鋼管	ポリエステル系樹脂塗装
梁	φ 89. 1 × 4. 2	"	"
母屋	C-60×30×15×1.6	Z A M	"
化粧板	t 0. 6	"	"
軒樋	t 0. 6	"	"
屋根板	t 0. 5	ガルバリウム鋼板	"
後母屋	t 1. 6	Z A M	"
簡力バー		A S A	
堅縫	φ 42	A A S	

※設計基準風速 V₀=38m/s、地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力 50kN/m²に対応とする。

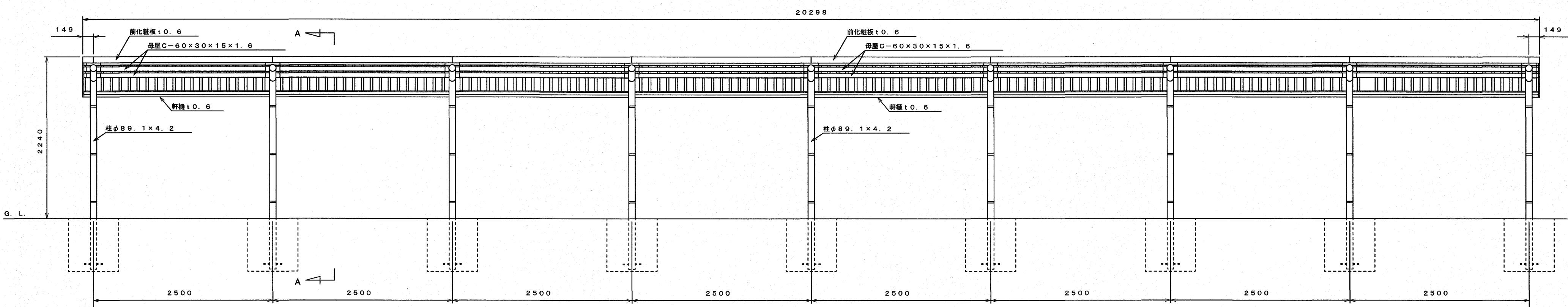
※基礎寸法及び駐輪場上屋部材寸法、形状は製造所の仕様による。



側面図 S=1/40



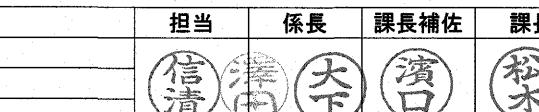
A-A断面図 S=1/30

コンクリート強度: F_c 21 N/mm² 以上

正面図 S=1/40

※A2→A3 (71%縮小)

ARTICLE	担当	係長	課長補佐	課長	PROJECT	城東中学校駐輪場設置工事	DATE	
	(清)	(大)	(濱)	(茶)	SUBJECT	駐輪場 1 詳細図-2	SCALE	1/30、1/40

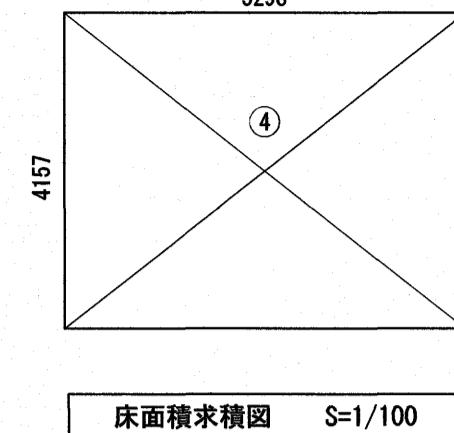
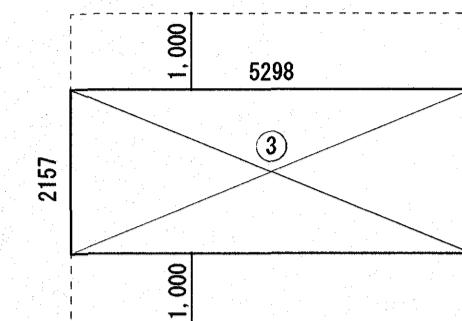
AL建築設計事務所株式会社
Architect Laboratory design office Co., Ltd.高知市介良乙3729番地24
Tel:090-9775-5294/Fax:088-881-1676
一級建築士事務所 高知県知事許可 第1278号
管理建築士 一級建築士(大臣)第327052号 辻本 一英DRAW PAGE NO.
A - 06

仕様大要			
品名	サイズ	材質	仕上げ
柱	φ89.1×4.2	亜鉛-アルミ マグネシウム合金めっき鋼管	ポリエステル系樹脂塗装
梁	φ89.1×4.2	"	"
母屋	C-60×30×15×1.6	ZAM	"
化粧板	t0.6	"	"
屋根板	t0.5	ガルバリウム鋼板	"
後母屋	t1.6	ZAM	"
筒力バー		ASA	
谷樋	幅120	塩化ビニール	
堅樋	φ61	"	

※設計基準風速 V_o=38m/s、地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力 50kN/m²に対応する。

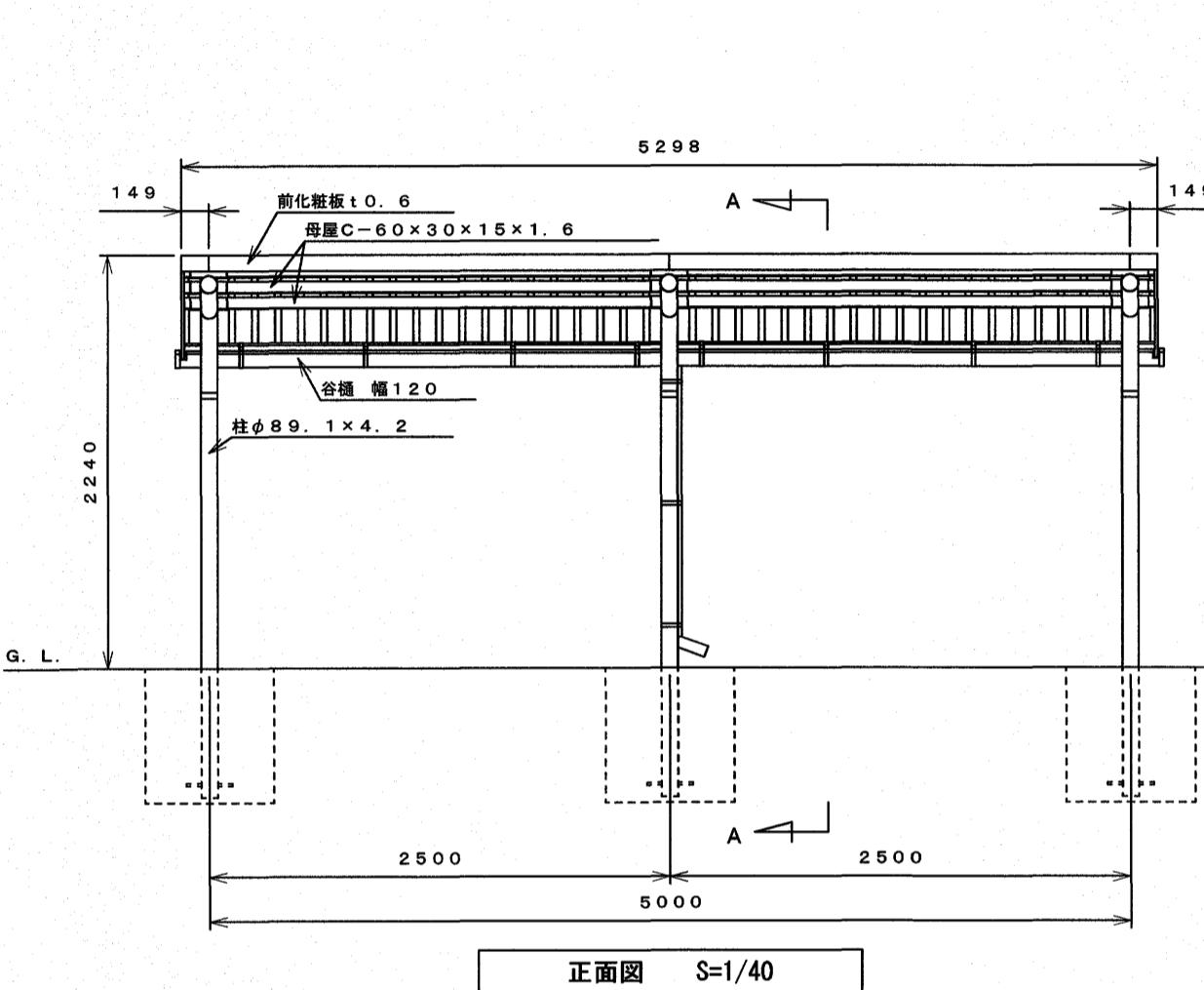
※基礎寸法及び駐輪場上部材寸法、形状は製造所の仕様による。

面積表			
(3)	5.298 × 2.157	11.427786	
(4)	5.298 × 4.157	22.023786	
建築面積求積表			
(3)		11.427786	
計		11.427786	
		11.42 m ²	
		(3.45 坪)	
床面積求積表			
(4)		22.023786	
計		22.023786	
		22.02 m ²	
		(6.66 坪)	

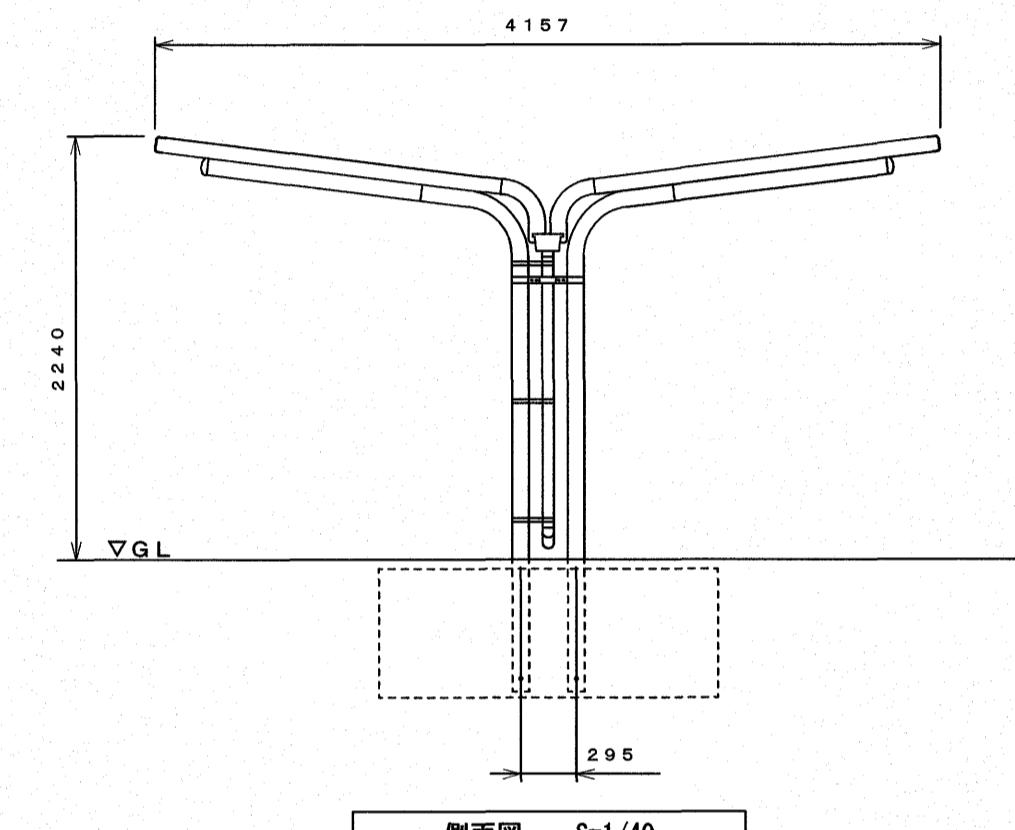


建築面積求積図 S=1/100

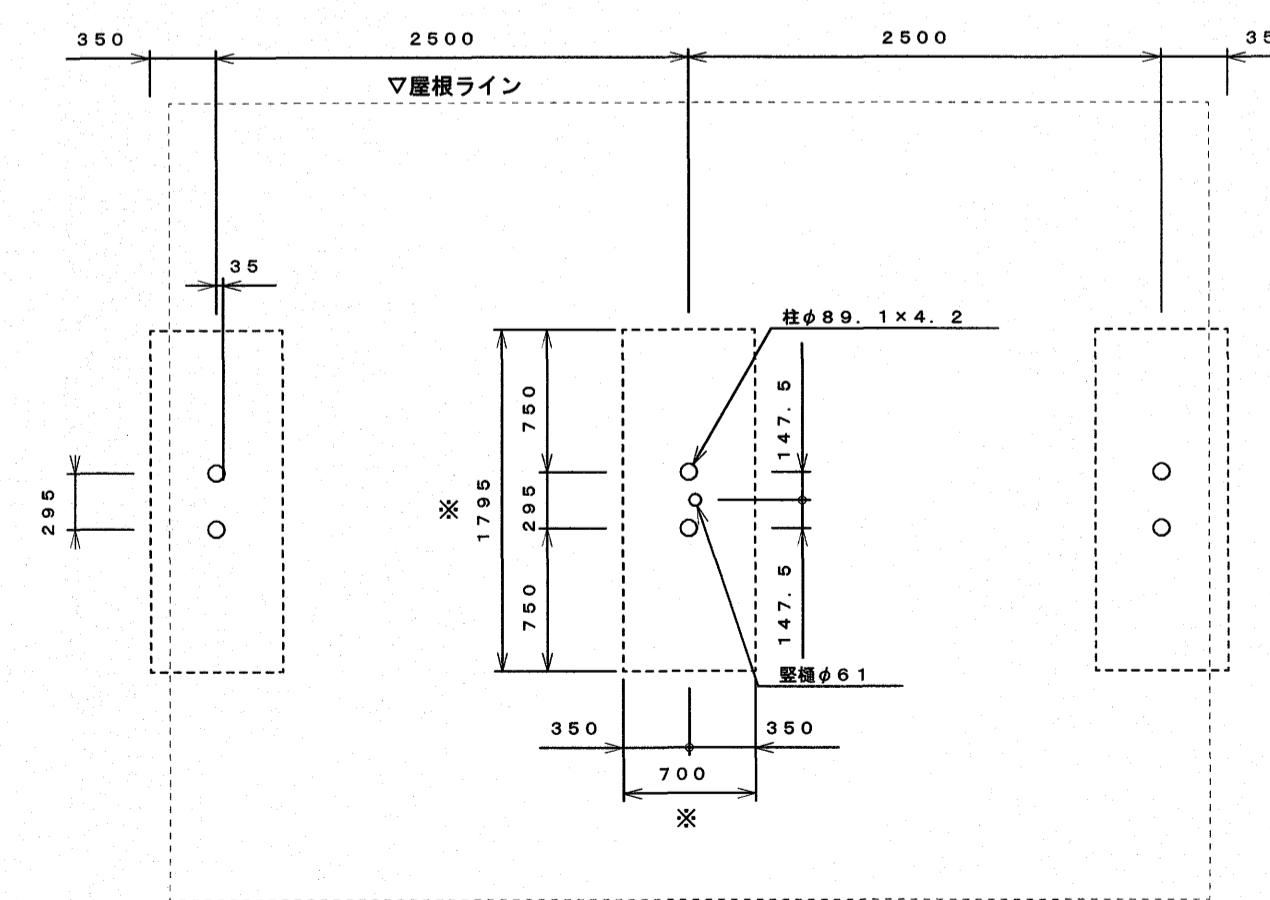
床面積求積図 S=1/100



正面図 S=1/40

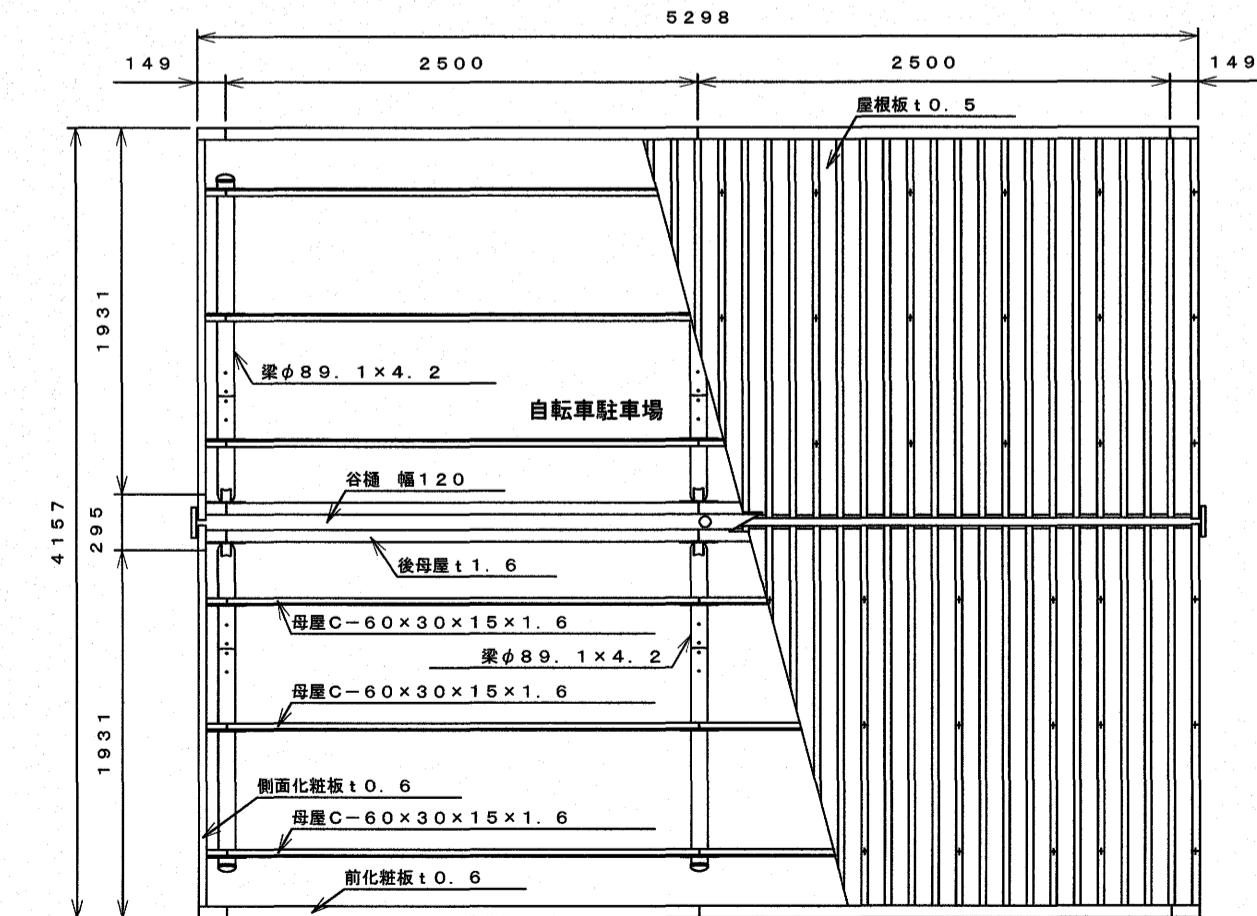


側面図 S=1/40

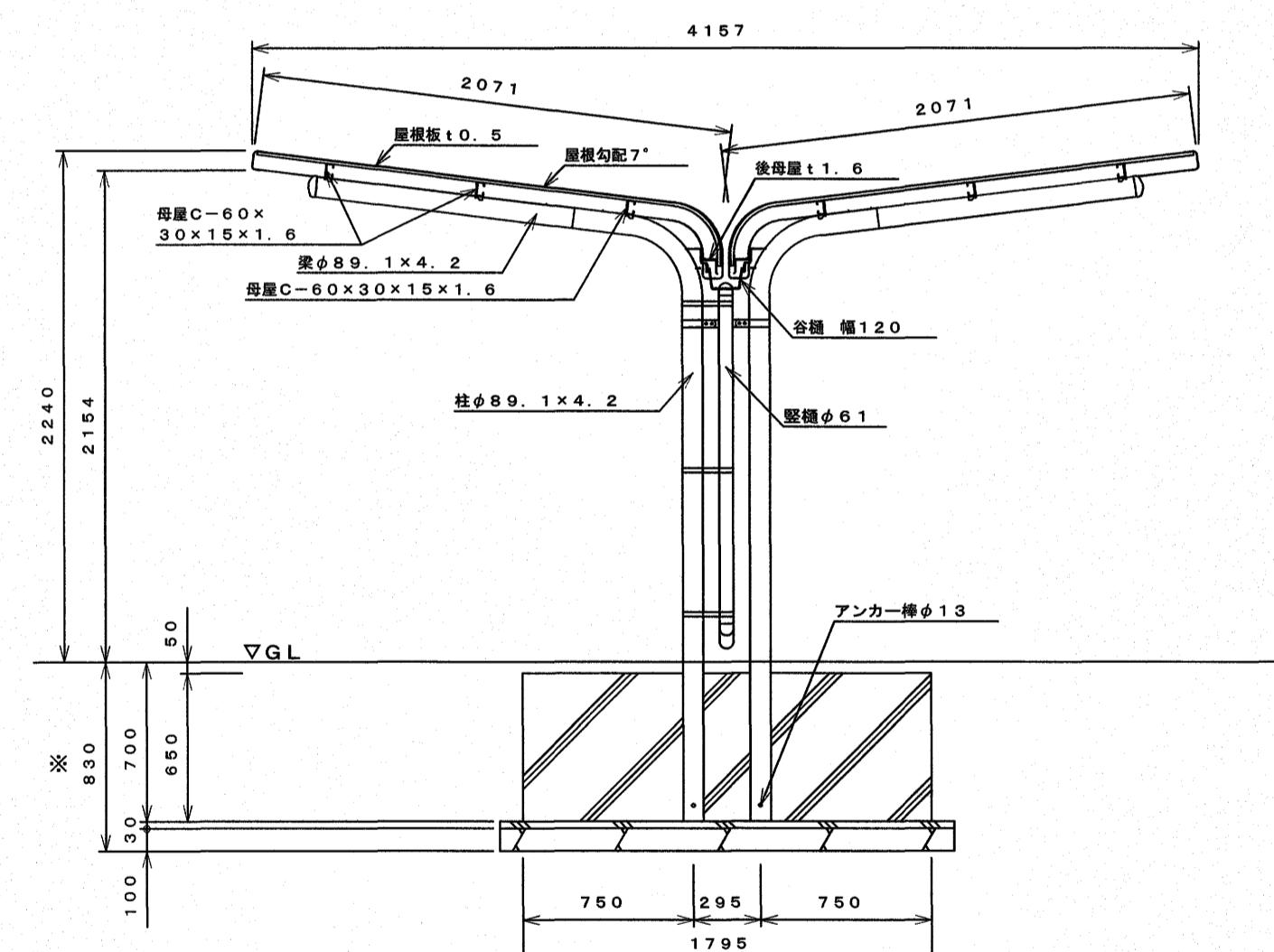


△屋根ライン

基礎伏図 S=1/40



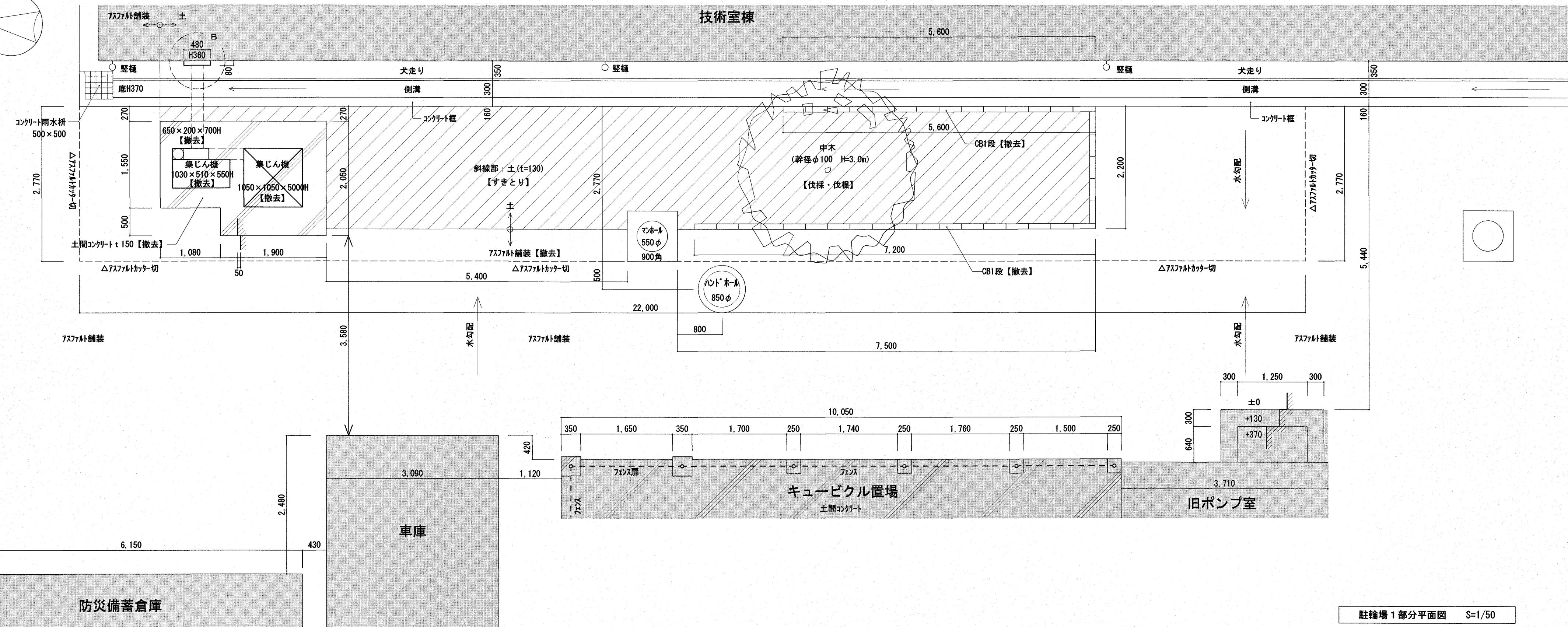
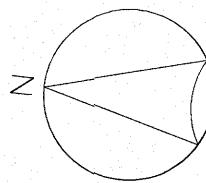
平面図 S=1/40



A-A断面図 S=1/30

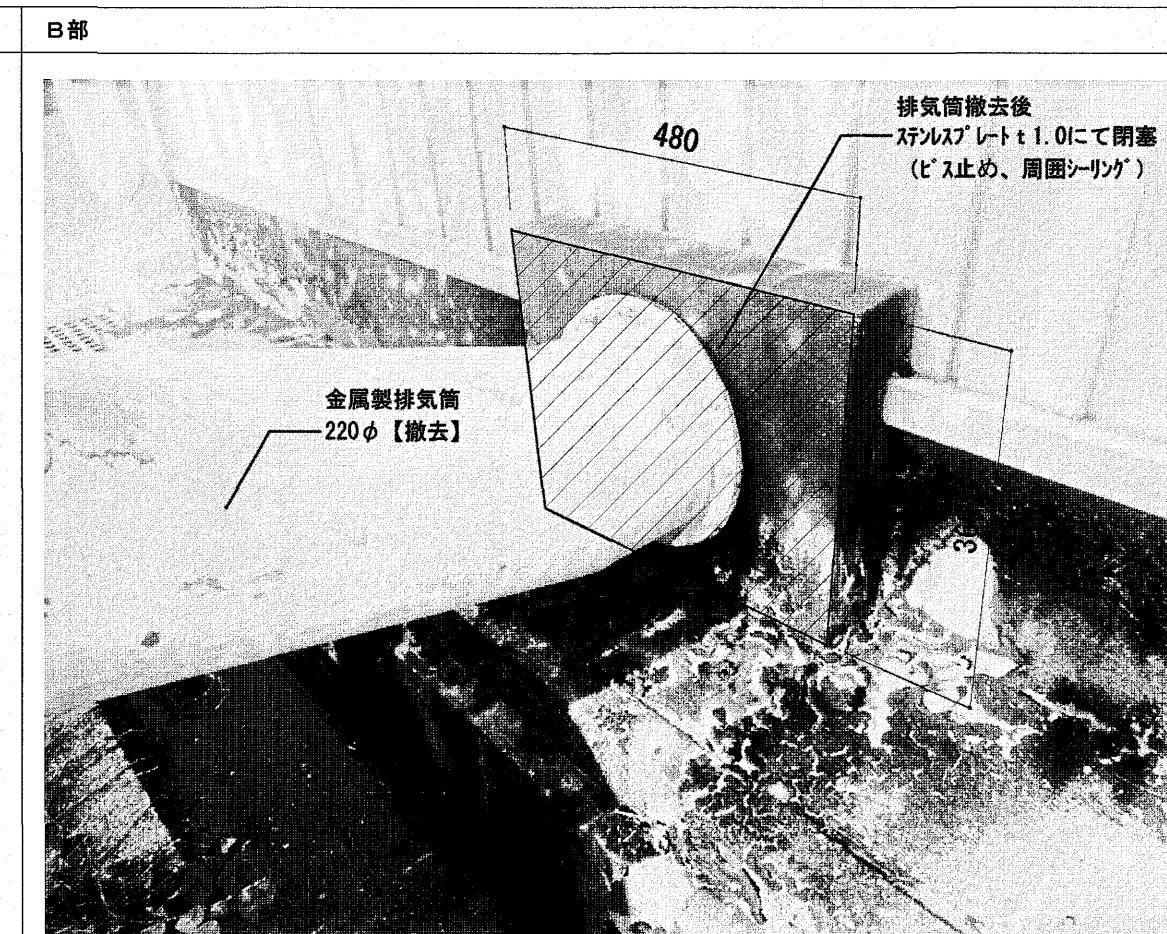
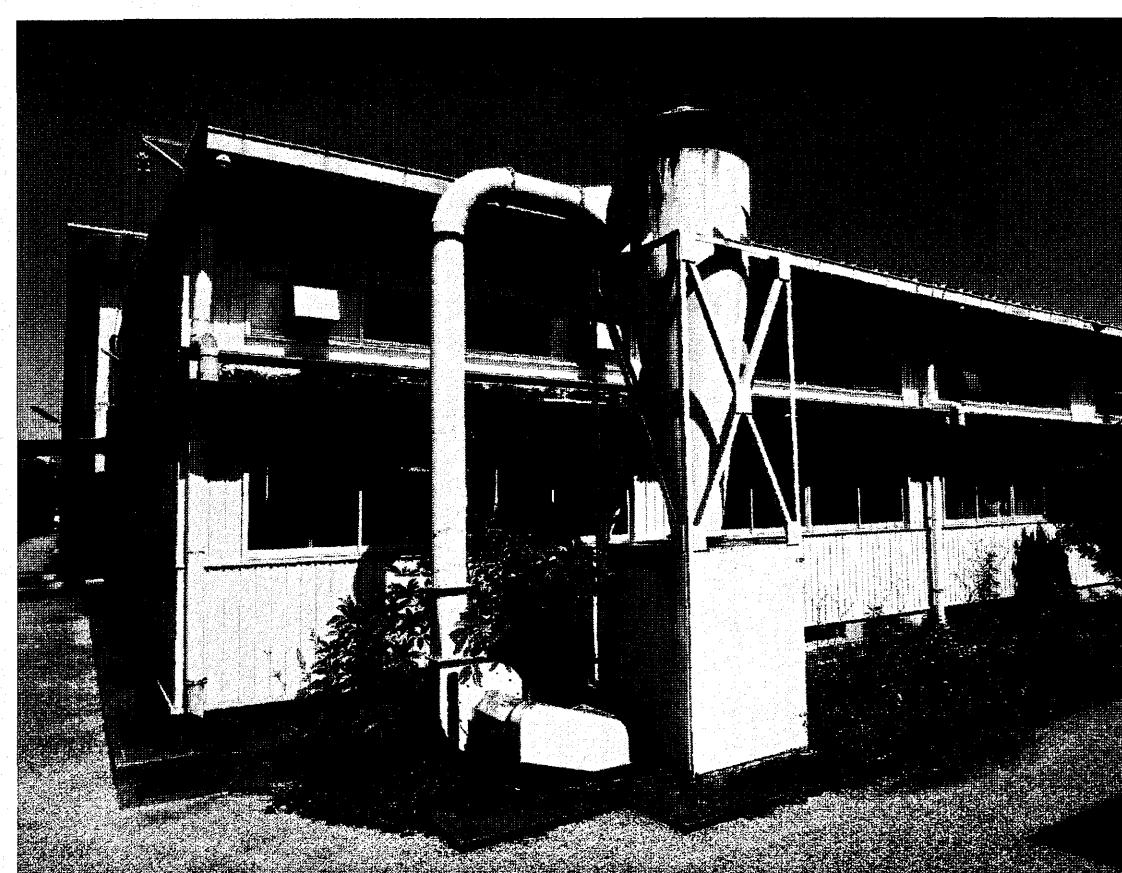
コンクリート強度: F_c 21 N/mm² 以上

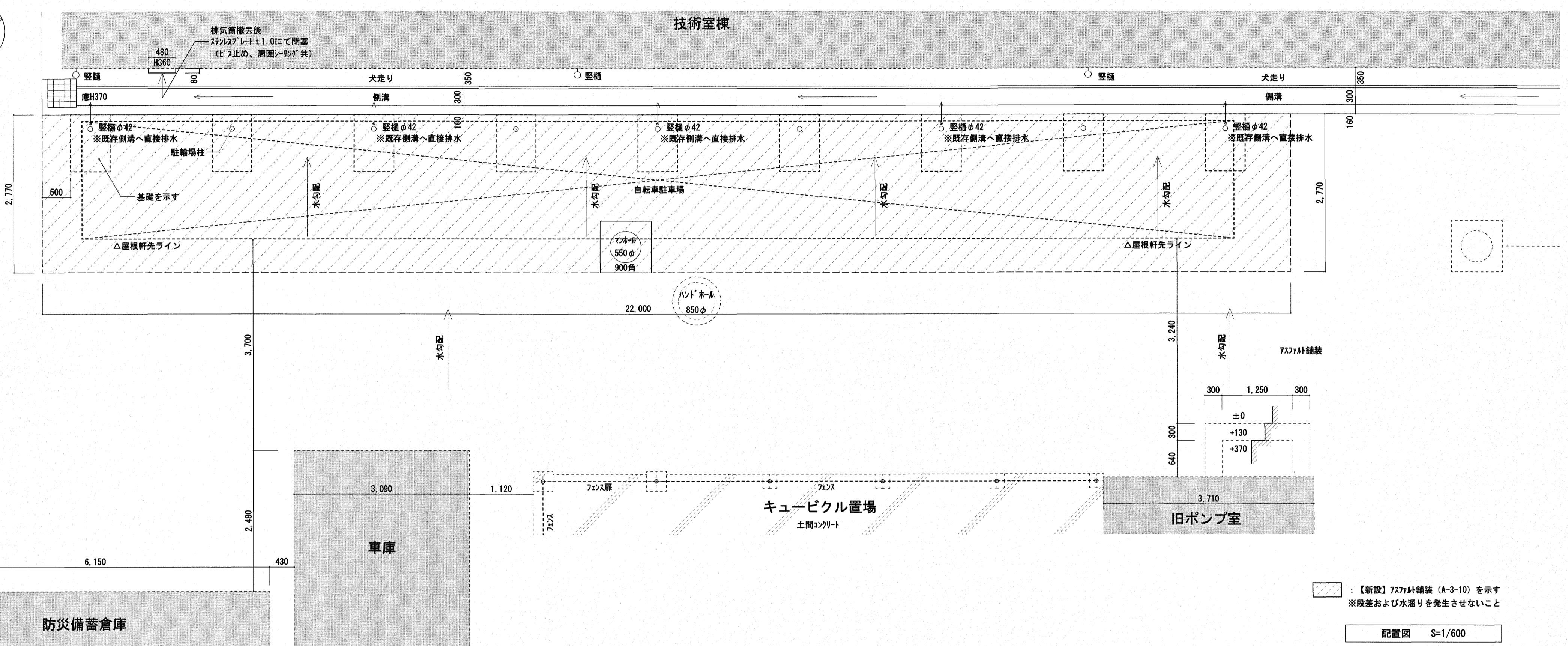
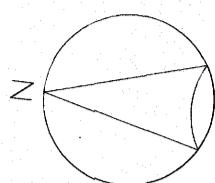
改修前



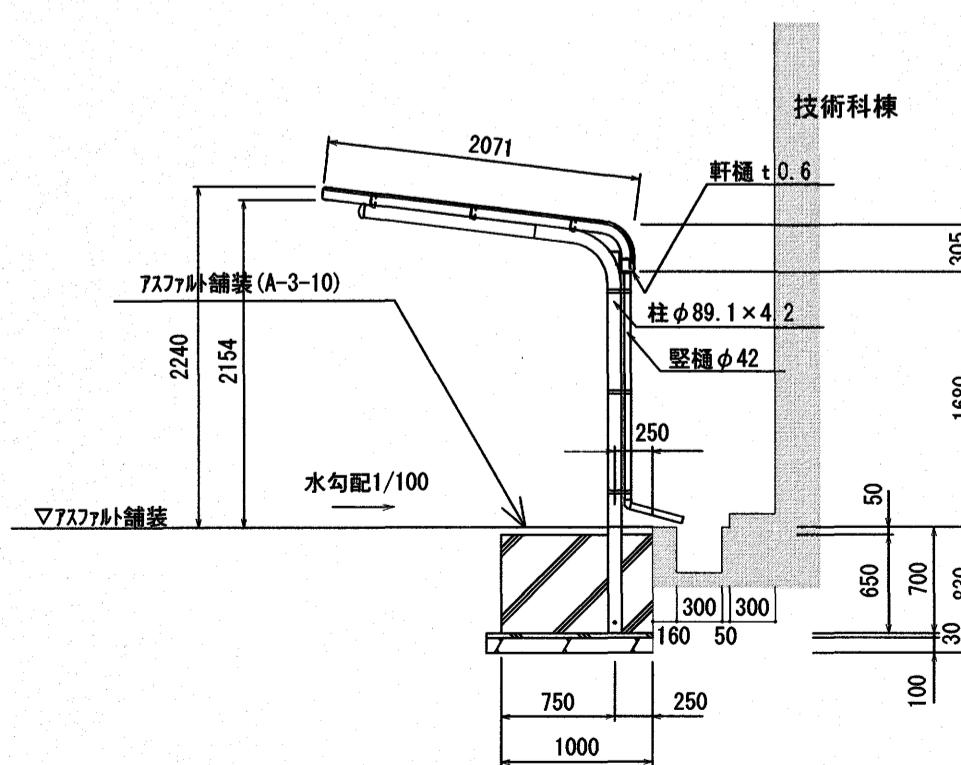
駐輪場 1部分平面図 S=1/50

集じん機【撤去】





※基礎寸法及び駐輪場上屋部材寸法、形状は製造所の仕様による。



ARTICLE	※A2→A3 (71%縮小)
	担当 係長 課長補佐 課長
	PROJECT 城東中学校駐輪場設置工事 DATE

(清) (清) (大) (瀬) (大) (松)

PROJECT 城東中学校駐輪場設置工事 DATE

SUBJECT 駐輪場1 外構詳細図(改修後)

SCALE

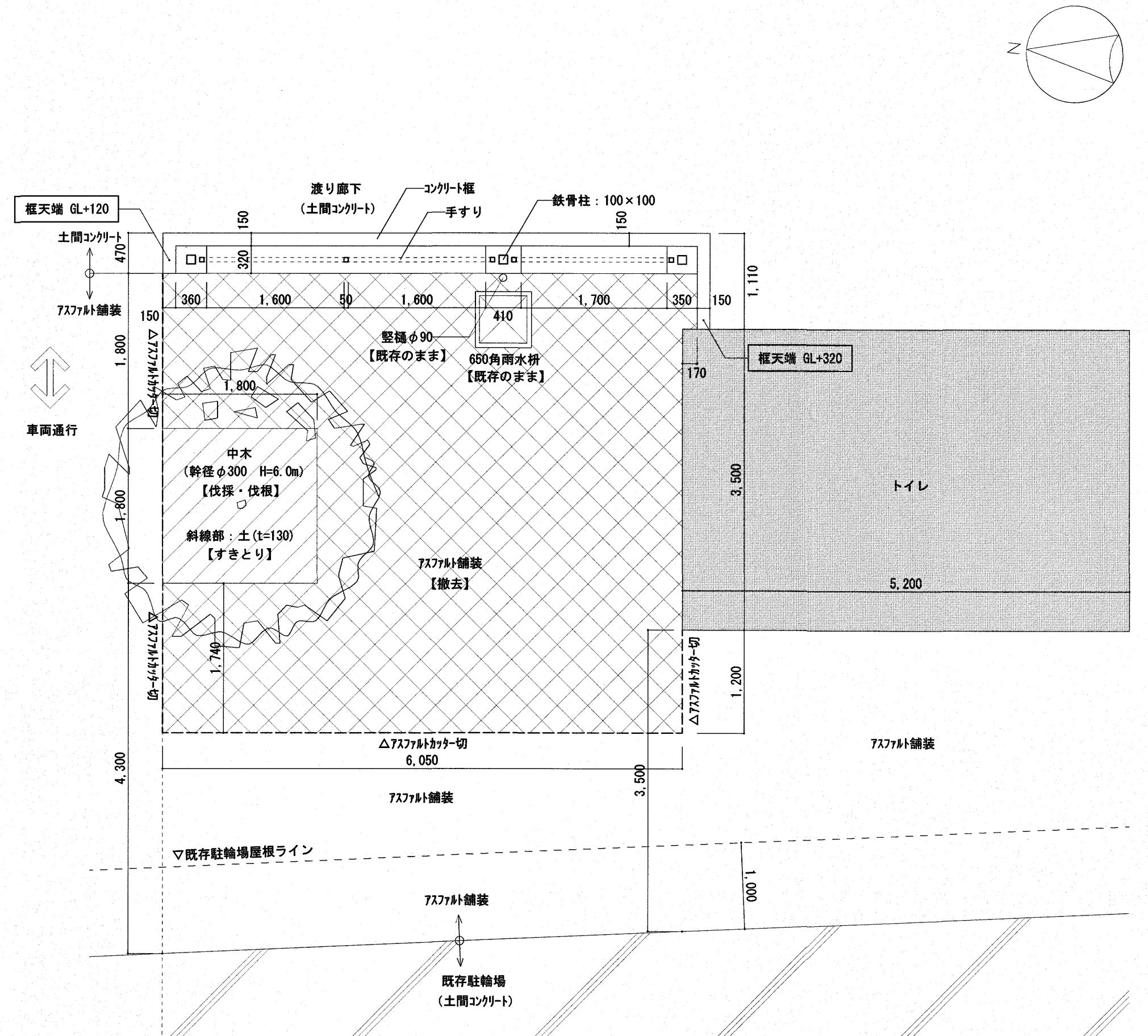
1/50

AL建築設計事務所株式会社
Architect Laboratory design office Co., Ltd.

高知市介良乙3729番地24
Tel:090-9775-5294/Fax:088-881-1676
一級建築士事務所 高知県知事許可 第1278号
管理建築士 一級建築士(大臣)第327025号 池本 一美

DRAW PAGE NO.
A — 09

改修前



改修後

